

# 激動期に於ける大學

—「大學、高專の學校整備に關する實施要領」を讀みて—

教授・大學圖書館長 岩崎卯一

## 一 大學の急轉回

激動期的情勢よりの激しき壓力は、平靜期的情勢の下に確立されし凡ゆる文物制度を、微塵の容捨もなく、破砕しつゞけてゐる。就中、國家の興亡を賭する大戰爭の如き峻烈無比の激動期的情勢は、國民の「生命」をも、祖國防衛のために、假借なく要求してゐる。而も、現在の我國が當面せる激動期的情勢は、まさしく肇國以來未曾有のものである。支那事變當時、國家が多額の費用を投じて推進せし「國民精神總動員運動」を以てしても、容易に其目的を達し得ざりしことは、今日に於ては、タラワ、マキン島勇士全員玉

碎」の新聞報道一本を以て、瞬時に實現されてゐる。これは、全國民が、現戰局下に於ける我國危機の重大性を、空疎なる「宣傳」に依ることなく、嚴肅なる「事實」を通じて、強く認識せるが故である。斯かる激動期的情勢よりの壓力は、強大なる敵國としての米英の戰爭意欲が喪失せざる限り、今後と雖も依然繼續するのみならず、或は更に一層激化するであらう。國民の「生命」さへも、祖國防衛のために要求されてゐる此際、國民の「文化施設」の一たるに過ぎざる大學が、斯かる目的の爲に改變せしめられることは、寧ろ當然である。

## 二 大學轉回の觀測

余は、一昨年より今年にかけて、激動期的情勢に於ける我國の大學一般が、如何なる轉回過程を辿るであらうかに就て、專攻する社會學の觀點に據る一豫測を試み、數回これを發表し來つたのである。余の觀測の骨子は、第一に、官公私立學校の區別が經營的に稀薄化し結局國營に成ることであり、第二に、文武の各學校に於ける區別が内容的に減少することであり、第三に學業と勤勞とが均しく學校教育の内容として取入れられることである。發表當時、周圍より不信を以て迎へられし余の觀測も、其後の情勢變化に依り、甚だしき誤謬にあらざりしことを證明され來りしが、昭和十八年十二月二十三日、政府より發表されたる「大學、高專の學校整備に關する實施要領」を見んか、余の前掲觀測が、次第に具體性を帯び來れるやに思はれる。今左に、私立大學の整備を中心として

之を檢討するであらう。

## 三 國營大學への接近

「實施要領」は、依然として帝國大學、官立大學、公立大學、私立大學の區別を認てゐる。此點には、激動期下の大學が、究極に於て、「國營化」として斷定せし余の觀測は、確實性を失せりやの觀がある。然し、大學變革の内容を仔細に檢討せば、我國の大學が、國營化の方向に一路邁進しつゝあることを、容易に理解するであらう。

先づ、國營大學の範疇たる帝國大學に就ては、文化系と理科系との收容人員に於ける比率轉換が行はれるのみにして、其他の點にては何等の變革をも求められてゐない。此事は政府が、日本の大學制度としては、經營上、學問研究上、教授上、帝國大學型を以て最も適合せるものと認めつゝあるを示すものである。次に、官公立大學に對する處置も、三商科大學の申譯のなる看

大正十一年六月十五日創刊  
昭和十八年十二月廿九日印刷  
昭和十九年一月一日發行

發行人 岩崎卯一 數氏 謹  
編輯人 岩崎卯一 數氏 謹  
大阪市北區堂島  
上三丁目十五番地  
印刷所 谷口印刷所  
大阪市大淀區長柄  
中總二丁目十二番地  
發行所 關西大學學務部  
會員登錄證三〇六〇〇四

第二一五號 激動期に於ける大學……………岩崎卯一 (一)  
第五號 內 報…………… (三)  
校 友 關…………… (五)



板塗替を除けば、大體に於て帝國大學に準じてある。即ち、大學の「經營」に關する限り、「官公立」の名稱を以て呼ばれる「國營」の適合性如何に就ては寸毫も疑はれてゐない。

然るに、一度眼を私立大學の整備に注げば、形式的にこそ私立大學の面目を保持せしめつゝあるも、實質的には之を國營化の方向に誘導せんとする意圖が、「要領」の「國庫補助」と題する項中に見出される。其一は、理科系の私立大學及び私立専門學校に對する經費及び經常費の國庫補助である。従つて、今後の理科系私立及び専門學校の經營者は、學校の新設又は擴張の場合のみならず、學校の經營費に不足する場合にも、富豪、卒業生、特志家の寄附に訴ふるが如き點を避け、單的に之を國庫に仰ぐことが出来る。此點にて、「國庫」は理科系私立大學の大株主たるに至るのである。之は、政府の期待する「理科系學校國營化」の第一歩でなくて何であらう。其二は、文化系の私立大學に對する一般經常費若しくは研究經費の補助である。然じ、此場合には、次の如き區別がある。(A)統合したる文科系大學(學部と豫科)の經常費に對しては、國庫より適當なる補助をする。例へば明治、中央、法政の三大學が統合して一綜合大學を形成したる場合には、其大學經常費に對する

國庫補助がある。然し、明大が收容學生定員數の三分の一にて耐え、依然從前の儘にて存続する場合には、經常費の補助はない。茲にも、從來群立せし文化系私立諸大學を統合して、國庫補助の方策に依る國營化を企圖せる政府の意向が、明瞭に看取せられる。(B)定員縮減を忍びつゝ依然として從前の大學形態を維持せる私立大學に對しては、唯だ其大學が「精神科學ノ研究ヲ繼續セシムルタメノ研究施設」を新設する場合に限り、國庫は其研究施設の經費を補助するのである。實際上は、其大學の「精神科學研究所」に對する補助の形式にて、大學教授の「學究性」を保有せんとするのである。茲にて、精神科學の熟練工とも言ふべき學者を「國家的」に保有せんとする意圖が窺知される。(C)大學を廢止して専門學校に轉換したる私立大學に對しても、(B)の場合と同じく、精神科學研究施設を保有する場合に限り、其經費補助がある。要するに、國庫は如何なる種類の私立大學に對しても、其經常費又は經費を補助する用意あることを示してゐる。定員六千名を擁する我が關西大學に對し、年額僅に一萬圓の補助を與へて恬然たりし往年の文部省の態度に比せば、激動期的情勢の壓力に因るとは言へ、大學の國家性認識と國營化企圖とに、巨歩を進めたるものである。

#### 四 文武學校の融合

昭和十八年十二月二十三日には、前示せし「大學高專の學校整備に關する實施要領」と同時に、「昭和十九年度に於ける徴兵適齡一年低下決定」が發表せられた。即ち、滿十九歳青年の兵役徵集である。同じ年の十月二日には大學、高專諸學校學生徵集延期停止の發表があり、之に伴つて十二月上旬には徴兵適齡以上の學徒幾萬が、勇躍母校の門より軍陣に馳せ參じたのである。斯かる學徒兵の大部分は、軍の幹部たるべく、軍の諸學校に入り、前と同じ學窓生活を遂つてゐる。軍の諸學校に於ても、一般學校に於ける學業を高く評價し、特に大學其他の學校に在りし者には、殊遇を與へてゐる。讀つて、一般大學に於ても、其文科系學生こそ暫時其數多々たるものもあるも、理科系學生は、唯だ入營を一時延期されたるに過ぎざる「軍人」として取扱はれんとしてゐる。斯くて、校門と營門とは完全に接觸したのである。現下の戰爭にして愈々背烈を加へんか、大學、高專の校舎は官公私の區別なく軍營となり、學生生徒は固より老教授に至るまで、それぞれの位階を與へられたる軍籍に身を置くに至るであらう。將來に於ける上級學校の歸趨を卜せんと欲せば、現在の各種中等學校の變貌と、各種少年兵學校の激增とを熟視すべきである。

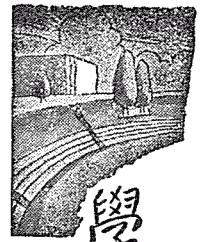
#### 五 學業と勤勞との接近

同じ日の政府發表に依れば、政府は勤勞動員の徹底的實施を目標とし、學徒動員を教授日數の三分の一程度に増加し、且つ理科系學生數を文科系學生數の數倍程度に増加するといふのである。工場と學舎との距離は、此處でも著しく短縮されてゐる。學業と勤勞とが全く同一物であるとの教育觀念が、久しく勤勞を蔑視し來れる國民全體に滲透し行く日も、遠い將來ではあるまい。(昭和十八年十二月二十四日稿)

#### 學徒出陣

講師 田邊信太郎

學帽をすて、かしま大君の御召にこたふわが教へ子は時なれば日々きたへし教へ子の今矛とりてちいでんとす磐石のこゝろゆるがじ矛とりて撃ちうたむとぞい征く教へ子劍にぞノートをかへてきほひたつわが教へ子の姿いつかし出陣の御召にきほふ教へ子の矛に撃たれぬ敵あらばこそ大君の御召かしま矛とれば氣魄たくましわが教へ子は若鷲のをたけび鋭く冬空を翔けたちゆけり時ぞゆゑしき



# 學内報

## 冬期授業日程

授業終了 授業開始

學部 十二月廿日 一月十日

豫科 十二月廿一日 一月七日

專門部一部 十二月廿四日 一月十日

專門部二部 十二月廿四日 一月十日

尙豫科は十二月十三日より十八日まで中間審査を實施す。

## 假卒業式舉行

徵兵豫科制度撤廢による學生生徒入營者に對し、學部、豫科、專門部共明年九月卒業並修了者〇〇名に對し、假卒業の特別取扱ひをなすこととなり、その假卒業證書授與式並に壯行式は去る十一月廿日學部及豫科は千里山學會威德館に於て、專門部は同日午後一時より天六學舎講堂に於て夫れ夫れ舉行、神戸學長より證書の授與あり、決戦下の學園より戰場に送る學徒に對し絶大なる信頼をのべて、その士氣を鼓舞激勵し、學生代表の答辭ありて、壯行式に移り、報國團長、副團長の壯行の辭について、出陣學徒全員に伊勢神宮の御守を授與し、出陣學徒代表の烈々たる戰陣に臨むの決意を表明ありて一同「海ゆかば」齊唱の後盛會裡に閉式した

## 軍事講話(日本文化)

苛烈なる決戦下、戦局の真相を把握して學徒の決意を一層堅固ならしめるため專門部に於ては、本年度日本文化講義として軍事講話を拜聴することとし、十二月廿三日午後一時より天六學舎講堂に於て專門部第一部生徒に對し、午後六時より專門部第二部生徒に對し、大阪海軍警備府人事部長本朋一郎中佐の講演を伺ひ、現戦局の解説して學徒の蹶起を促し多大の感銘を與へた。

## 報國團彙報

一、軍用機献金 國民協力令による工場協力謝禮金壹千五百五拾圓也を十一月廿六日大阪毎日新聞社を経て陸海軍用機献納の一部として寄託。(學部)

一、体力章檢定 學部は十二月二、四の兩日、豫科は十一月十一日、廿九日の兩日、專門部は十一月廿、十二月二、三の三日間實施。

一、軍用機献金 學部豫科專門部の三報國隊員の大阪市貯水池掘開作業協力による謝禮金參千五百八拾八圓貳拾貳錢也は軍用機献納資金として十二月十五日朝日新聞社に寄託した。

一、待避壕掘開 十二月十三日より十六日迄毎日午後一時より四日間全學生收容の待避壕を掘開した。(學部)

一、休閒地耕作 十二月廿一日より廿四

日迄毎日午前九時より午後四時迄休閒地利用耕地整理第一回として學内テニスコート附近一帯に亘り全學生作業を實施す。(學部)

## 訓練實施。(專門部)

一、冬期鍛鍊實施 十二月廿日より翌一月末日まで專門部一部修練部主催にて天六學舎長柄橋北詰間駈足訓練、厚生部主催にて厚生體操を實施。(專門部)

一、特設防護團訓練 十二月廿七日防空

## がく報抄

神戸學長 十二月十五日東京文部省。  
矢口專務理事 十二月廿七日文部省の召電により上京。  
福島四郎教授 京都市左京區岡崎東福ノ川町二一へ轉居

## 學部學科目擔任

昭和十九年度

○法文學部法律學科

英法、海商法、手形法、小安藤 光  
切手法

政治學、社會學、社會政策 岩崎 卯一  
民法總則、親族法、相續法 木村 健助  
哲學概論、西洋倫理學 武内 省三  
憲法、法律思想史、行政法 中谷 敬壽  
總論、行政法各論、法理學 獨法、商法總則、商行為、野村 次夫  
會社法、  
物權法、英法、債權法 和田 豐二  
經濟政策概論、磯部 喜一  
經濟原論 正井 敬次  
經濟史 矢口孝次郎  
刑法總則、刑法各論、刑事訴訟法 植田 重正  
國際公法 川上 敬逸  
獨 法 福島 四郎  
財政學 三谷 道麿  
民事訴訟法 山木戸克己

○同 政治學科

佛法、國際私法 柳瀬 兼助  
東洋倫理學 石濱純太郎  
日本文化史 魚澄惣五郎  
行政學 佐々木惣一  
外交史 末廣 重雄  
日本法制史 牧 健二

政治學、社會學、政治史、社會政策、政治學特殊問題 岩崎 卯一  
民法總則、親族法、相續法 木村 健助  
哲學概論、西洋倫理學 武内 省三  
憲法、法律思想史、行政法 中谷 敬壽  
總論、行政法各論、法理學 獨法、商行為、會社法 野村 次夫  
商法總則、商行為、會社法 磯部 喜一  
物權法 和田 豐二  
經濟政策概論、工業政策 中村良之助  
經濟原論 正井 敬次  
地政學 吉田 一枝  
政治學史 矢口孝次郎  
經濟史 村田數之亮  
西洋文化史

刑法總則、刑法各論 植田 重正 西洋哲學史(古代、中世) 宮崎 幸三 社會學、社會政策 岩崎 卯一

政治書研究、國際公法 川上 敬逸 ○同 英文學專攻科 武內 省三 哲學概說、西洋倫理學 木村 健助

財政學 三谷 道磨 哲學概說、西洋倫理學 武內 省三 物權法 和內 豐二

國際私法 柳瀨 兼助 文學概論、英文學 堀 正人 教育學 三枝樹正道

統計學 高木 秀玄 佛 語 賀來 俊一 教育學 三枝樹正道

東洋倫理學 石濱純太郎 英文學 村上 喜貞 獨文經濟書講讀、經濟學史 三谷 友吉

日本文化史 魚澄惣五郎 西洋文化史 村田數之亮 國際公法 川上 敬逸

行政學 佐々木惣一 教育學、教授法 三枝樹正道 商法總則、商行爲 國歲 胤臣

外交史 末廣 重雄 英文學 山田松太郎 英文經濟書講讀、資源經濟 中川庸太郎

日本法制史 牧 健二 日本文化史 魚澄惣五郎 債權法、親族法、相續法、福島 四郎

○同 文學科哲學專攻科 國文學 金子又兵衛 英文經濟書講讀、經濟演習 三谷 道磨

政治學、社會學、社會政策 岩崎 卯一 佛 語 三木 治 國際私法 柳瀨 兼助

哲學概說、西洋哲學史(近代、現代) 武內 省三 經濟政策概論、工業政策、獨文經濟書講讀、國土計畫 磯部 喜一

法理學 中谷 敬壽 經濟政策概論、工業政策、獨文經濟書講讀、國土計畫 磯部 喜一

文學概論 堀 正人 獨文經濟書講讀、國土計畫 磯部 喜一

經濟原論 正井 敬次 佛文經濟書講讀、簿記原理、經營學、會計學、工業簿記及原價計算、經濟演習 賀來 俊一

心理學、認識論、日本支那 大小島眞二 簿記原理、經營學、會計學、工業簿記及原價計算、經濟演習 賀來 俊一

哲學思想史特殊問題 村田數之亮 簿記原理、經營學、會計學、工業簿記及原價計算、經濟演習 賀來 俊一

西洋文化史 三枝樹正道 交通論、經濟演習 河村 宜介

教育學、教授法 菅 守常 商業簿記、商業政策 地政學、東亞經濟論 中村良之助

哲學講讀、論理學、哲學特殊問題、論理認識論特殊問題 魚澄惣五郎 經濟原論、經濟演習 正井 敬次

東洋倫理學 石濱純太郎 地政學、東亞經濟論 中村良之助

日本文化史 片山 正直 商業數學 三木 純吉

宗教學 金子又兵衛 貨幣論、金融論、英文經濟書講讀、經濟演習 森川 太郎

國文學 新町 德之 憲法、行政法總論、行政法各論 吉田 一枝

東洋哲學史(支那) 高島 寬我 經濟史、日本經濟史、經濟演習 矢口孝次郎

印度哲學、佛教學 田邊信太郎 經濟史、日本經濟史、經濟演習 矢口孝次郎

美學美術史 藤本 進治 手形法、小切手法 安藤 光

倫理學演習 藤本 進治 手形法、小切手法 安藤 光

貨幣論、金融論、經濟演習、森川 太郎

憲法、行政法總論、行政法 吉田 一枝

經濟史、日本經濟史、經濟演習 矢口孝次郎

手形法、小切手法 安藤 光

社會學、社會政策 岩崎 卯一

民法總則 木村 健助

西洋倫理學 武內 省三

物權法 和內 豐二

教育學 三枝樹正道

獨文經濟書講讀 三谷 友吉

國際公法 川上 敬逸

商法總則、商行爲 國歲 胤臣

債權法、親族法、相續法 福島 四郎

國際私法 柳瀨 兼助

統計學 高木 秀玄

東洋倫理學 石濱純太郎

日本文化史 魚澄惣五郎

商業史 田邊信太郎

經濟原論 賀來 俊一

簿記原理、經營學、會計學 磯部 喜一

工業簿記及原價計算、經濟演習 賀來 俊一

交通論、經濟演習 河村 宜介

商業概論、商業簿記、商業政策、英文經濟書講讀 中村良之助

貨幣論、金融論、英文經濟書講讀、經濟演習 正井 敬次

經濟原論、經濟演習 森川 太郎

英文經濟書講讀、商業英語 水谷 揆一

英文經濟書講讀、商業數學、英文經濟書講讀、銀行及信託論、商業演習 三木 純吉

經濟史、日本經濟史、經濟演習 矢口孝次郎

手形法、小切手法 安藤 光

閑山 浦田關太郎 (辯護士、大九專法卒)

送學 鶯 熱血學生辭學窓 忽拋書卷隕航空 暴威英米期粉碎 意氣揚々全報公 悼同窓高梨代議士 侃譎法曹權且威 病來扁鵲奈難治 當年雄辯那邊聽 矚瞻眼前豪壯姿

# 校 友 欄

## 支 部 新 設

▽マニラ支部 十月十三日

支 部 長 高橋良美

副支部長 橋本利八 藤田貞勝

支部事務所 マニラ市タボラ街七五二  
高橋商店内

▽三重支部 十一月廿八日

支 部 長 小川成雄

副支部長 森田仁一

支部事務所 津市丸之内北本丸二〇八

四、小川成雄方

## 實行委員會報告

理工學科設置問題に關する校友會實行委員會の活動狀況につき本誌前號掲載以後の分を左にかゝる。

▽第七回 十一月十八日、特別協議員五名を招き懇談會開催。

▽理事、特別協議員招待懇談會 十二月四日午後四時半より新大阪ホテルに於て開催、矢口、内藤の兩理事、板野友造、松本茂三郎、村尾静明の三特別協議員出席、矢口、内藤兩理事より其の後の理工科設置問題、私大の統合問題等につき報告ありて、委員より種々希望意見を開陳し、午後七時半終了、出席者廿五名。

▽報告書作成 本會の活動狀況報告書を作成し、支部並に校友會評議員宛發送

報告をなすと共に母校の爲に一層の盡力を懇請した。

▽第八回 十二月廿二日、木下副委員長より十二月三日以後の経過報告あり、愈々専門部に機械工學科設置に決定その具體的な理事當局案の説明あり、阪大元教授吉木逸郎工博を科長に迎へ、本年中に文部省に設立認可申請される趣により、本會としてはその實現に積極的な協力なすことに申合せた。出席者十一名。

## マニラ支部創立

新比島建設のため各方面に活躍の校友は相當の數に上ると想はれるが、高橋、橋本、中村の諸兄の斡旋により支部發會を企圖された處、名乗りを揚ぐるもの陸續として現はれ、時恰も比島獨立の世紀の盛典を明日に控へた十月十三日意義ある發會式並に第一回の懇親會を午後六時半市内「さくら」に於て開催した。謂ふ迄もなく在校校友は皇軍諸般の任務に、或は報道其の他の各方面に滾刺たる意氣に燃えて聖戦の完遂、新比島の再建に日夜力戰努力し來れる勇士のみにて、開會の挨拶、自己紹介、支部設立、支部長以下役員の見、こゝに芽出度マニラ支部は誕生した。それより懇親會に移り談は大東亞の建設に、福島、千里山、天

六の母校の懐舊談に時を忘れ、一同は將來の奮闘を誓つて學歌を合唱し、母校の發展を祈りつゝ閉會した。

尙出席在任校友は左記の通りである。  
西原紋市、橋本利八、森吉太郎、若宮虎雄、高橋良美、福地壽三、中村進、西村助信、藤田貞勝、大谷盛廣、桑本幾次、末本宣一、清原眞一、中村美成、中村毅、勝岡五十吉、福島敬雄、松浦秀立、萩原榮太郎、駒井儀三郎、渡邊成、前川正行の諸氏  
支部事務所はマニラ市タボラ街七五二株式会社高橋商店内

## 三重支部發會

神都三重縣下には五十餘名の在住校友を擁し、かねてより支部設立の準備が進められてゐたが、機熟し十一月廿八日午後二時より津市岩田橋詰「石水會館」に於て發會式を舉行した。定刻森田仁一氏司會の下に國民儀禮ののち、小川成雄氏より支部設立の経過を報告あり、ついで會則を審議決定して役員選舉に移り、満場一致小川成雄氏を支部長に推薦し、副支部長に森田仁一氏、幹事には各地域別に清水嘉文、澤佐八、井口茂、太田正夫、館秀雄、水谷嘉郎、田中愼二の諸氏が支部長指名で決定した。それより母校教授校友會本部常任幹事藤川大郎氏より戦時下の母校の現況並に校友會の活動狀況について報告あり、今後の母校の維持發展については校友の後援に俟つ處大なる旨強調要請し午後五時閉會、席を別室に移

して記念晚餐を共にし、聖壽の萬歳を奉唱し、母校並に三重支部の萬歳を三唱して意義ある發會式行事を終了した。

尙支部事務所、津市丸之内北本丸二〇八四、小川成雄氏方におく。

## 朝鮮支部

第三四回朝鮮神宮參拜を十一月七日午前九時に舉行、一同參拜を終つて南山亭で休憩、當日岡本支部長は都合で八時に參拜され、野田幹事長は内地旅行中不參だつたが暫く振りで松田副支部長の顔も見え、次回からはもつと多數會員が參拜するやう要望され、十時過ぎ散會した。

出席者！松田清、伊東祐一、小西直意、田村格治、岡本至徳、木原安彦、近藤薫、鈴木勤、信田芳、田村英一 以上

## 秀麗會 (關東州支部)

秋季總會並に第九十回例會を十月廿日午後六時より中央公園の南華園に於て開催す。顔も揃つて十七名と云ふ盛會で、幹事の心盡して誠に決戦下に相應しい和やかな總會が展かれた。定刻竹若幹事の挨拶ありて、山下前幹事轉出に伴ふ後任補充に北條茂義君推薦の件、出張祝改正に保龜松博士弔詞發送の件、出張祝改正に關する件、秀麗原稿充實に關する件、秀麗會校友俱樂部設置の件を決定、一同は尙も是等の議案を巡つて各所に意見の開陳があるなど終始和氣霽々として話は盡

きず所定の時間もはや過ぎて九時半學歌高唱して散會す。

出席者一秀島金治、飯田昇、守谷賢治、川野勳平、岩本壽三郎、平井三郎、黒田健勝、濱島久義、萩原博、濱本進、北條茂義、貴村一雄、永田淺雄、豊永吉廣、竹若隆三、小川立朝

上海支部

決戦下現地在留十萬の邦人が感謝と大東亞戰爭完遂の強い決意とて迎へた上海神社秋季大祭も滞なく終了した十一月四日午後六時半より日本俱樂部に秋季總會を開催、二十名に達する盛會とであつた。先づ國民儀禮の後、辻野支部長より分校設置問題の件、支部基金處理委員會組織の件、母校理工科設置等の報告及毎月一日十五日の兩日早朝上海神社に大東亞戰爭完遂と出征校友の武運長久祈願參拜を爲す事に決定し、次いで幹事長より支部會員の現状、會員の慶弔、出征校友に慰問品贈呈の件、會費納入の件、並に會計報告ありて一同歡談に入り爆笑又爆笑の演藝に時の過ぐも知らず、學歌並に海ゆかばを齊唱し支部長の發聲で母校興隆の萬歳を三唱して九時過和氣説々裡に閉會した。

出席者一忽那、竹内、藤木、谷口、辻野、高木、村田、寺尾、太田、細川、高岡、岡島、山田、吉村、淺妻、北村、井口、市村、大森、村井 以上

◆上海神社參拜 總會に於て滿場一致可

成された大東亞戰爭完遂並に出征校友武運長久の神社參拜は大戦三年を迎ふ十二月十五日午前七時一同大島居前に集合し意義深き第一回の參拜を行つた。

會員消息

大法

入江 實一(6) (堺市立花通一〇、木南車輛製造會社三寶工場)
豊田 一夫(15) (生野區大友町二ノ一三六(日本帆布統制會社))
廣田 憲信(8) (栗本鐵工所)
古川 親(5) (任警部、大阪府警察部外事課)
眞鍋 刀(18) (奉天省鞍山市、昭和製鐵所鐵產課)
三谷 久男(6) (任警部、樂港警察署)
御堂河内四市(5) (堺市北田出井町一ノ五三四ノ一)
山口 春一(16) (判事長崎地方裁判所)

大 政
鈴木 敏雄(10) (警部、十三橋警察署)
小寺善二郎(7) (徳島市助任橋一丁目(森永食糧工業會社徳島工場事務長))
筒井 淳造(10) (東京都杉並區狹達一ノ一五四、稻田糧一方)

大 經
中島 平吉(2) (任地方警視、都島警察署長)

大 商

橋本 矢城(7) (東京都世田ヶ谷區上馬町二ノ三〇〇、山吉證券會社調査課長)

古松 寛彦(15) (東京都日本橋區通二、キン蔭ビル、大阪製麻會社東京出張所)
補島信一(9) (尼崎市塚口住宅地竹町二關矢 一雄(9) (大阪製鐵造機會社)
田中 敏雄(10) (ジャワジャカルタ市チドンチモール四八(野村東印度殖産會社栽培企業公園農園部))
牛羽 鈴喜(10) (名古屋市東區徳川町六ノ七(安宅産業會社名古屋支店))

秋田友三郎(16前) (天王寺區北山町二一(大阪電氣學校教諭))
大島 正己(13) (兵庫縣加古郡高砂町鹽淵實業會社高砂化學工場)
黒田 永次(12) (名古屋市東區徳川町五ノ四八)
佐々野 忠(16前) (廣島市三篠木町二ノ一三六四ノ四)
佐藤 澄男(14) (南河内郡藤井寺町小山五五三(大阪科學技術館))
坂本 龍夫(14) (日本パイプ會社園田工場)

鹽見常三郎(15) (在華日本紡織聯合會)
淡 敷男(11) (天津河北宿緯路鐘山里一號)
大橋 滿(9) (警部、大阪府警察部經濟保安課)
北川 正美(11) (愛知縣海部郡津島町津西島市場二(昭和精鍛會社))
橋高 忠雄(10) (警部、大阪府警察部經濟保安課)
住田 學(17) (泉南郡東島取村山中、(鐵道局生瀨驛))

尾上喜政(臨16專二法) (八月廿七日於南方海上散華、遺族阿倍野區天王寺町三六白砂文字殿)
方マライベラ洲キンタ郡戰死、遺族飾磨市妻鹿、本庄方尾上みき子殿
熊田盛三(昭17專一經) (十二月八日逝去遺族北區川崎町芸(父) 熊田重人殿)
白砂 直樹(昭8專一法) (七月廿二日於南方海上散華、遺族阿倍野區天王寺町三六白砂文字殿)
橋本 奮男(臨16大法) (十一月十八日戰病死、遺族神戸市須磨區天神町五ノ二二(母) 橋本ヒサ殿)
寶田 穰(昭5大法) (十一月廿五日急逝、遺族中河内郡細手村西條七六、(父) 寶田彌三郎殿)
美浦 秀雄(昭13專一商) (十七年十月十五日中支〇〇作戰に參加出動中戰歿、遺族西區九條通四ノ四八二(父) 美浦登殿)

専 一 商
秋田友三郎(16前) (天王寺區北山町二一(大阪電氣學校教諭))
大島 正己(13) (兵庫縣加古郡高砂町鹽淵實業會社高砂化學工場)
黒田 永次(12) (名古屋市東區徳川町五ノ四八)
佐々野 忠(16前) (廣島市三篠木町二ノ一三六四ノ四)
佐藤 澄男(14) (南河内郡藤井寺町小山五五三(大阪科學技術館))
坂本 龍夫(14) (日本パイプ會社園田工場)

鹽見常三郎(15) (在華日本紡織聯合會)
淡 敷男(11) (天津河北宿緯路鐘山里一號)
大橋 滿(9) (警部、大阪府警察部經濟保安課)
北川 正美(11) (愛知縣海部郡津島町津西島市場二(昭和精鍛會社))
橋高 忠雄(10) (警部、大阪府警察部經濟保安課)
住田 學(17) (泉南郡東島取村山中、(鐵道局生瀨驛))

尾上喜政(臨16專二法) (八月廿七日於南方海上散華、遺族阿倍野區天王寺町三六白砂文字殿)
方マライベラ洲キンタ郡戰死、遺族飾磨市妻鹿、本庄方尾上みき子殿
熊田盛三(昭17專一經) (十二月八日逝去遺族北區川崎町芸(父) 熊田重人殿)
白砂 直樹(昭8專一法) (七月廿二日於南方海上散華、遺族阿倍野區天王寺町三六白砂文字殿)
橋本 奮男(臨16大法) (十一月十八日戰病死、遺族神戸市須磨區天神町五ノ二二(母) 橋本ヒサ殿)
寶田 穰(昭5大法) (十一月廿五日急逝、遺族中河内郡細手村西條七六、(父) 寶田彌三郎殿)
美浦 秀雄(昭13專一商) (十七年十月十五日中支〇〇作戰に參加出動中戰歿、遺族西區九條通四ノ四八二(父) 美浦登殿)

林中央金庫高松支所)
光好(10) (尾崎警察署長)

光好(10) (尾崎警察署長)

改姓名

昭3專 谷日新太郎 芳谷新太郎
昭8大 政

訃 音

尾上喜政(臨16專二法) (八月廿七日於南方海上散華、遺族阿倍野區天王寺町三六白砂文字殿)
方マライベラ洲キンタ郡戰死、遺族飾磨市妻鹿、本庄方尾上みき子殿
熊田盛三(昭17專一經) (十二月八日逝去遺族北區川崎町芸(父) 熊田重人殿)
白砂 直樹(昭8專一法) (七月廿二日於南方海上散華、遺族阿倍野區天王寺町三六白砂文字殿)
橋本 奮男(臨16大法) (十一月十八日戰病死、遺族神戸市須磨區天神町五ノ二二(母) 橋本ヒサ殿)
寶田 穰(昭5大法) (十一月廿五日急逝、遺族中河内郡細手村西條七六、(父) 寶田彌三郎殿)
美浦 秀雄(昭13專一商) (十七年十月十五日中支〇〇作戰に參加出動中戰歿、遺族西區九條通四ノ四八二(父) 美浦登殿)